

# 雨飾山&高妻山山行報告

【山行日】2022年 9月 10~11日(土日)

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 13,500円

【メンバー】CL:鈴木 SL:廣瀬、  
石澤、小林、福島、

10日 晴れ 雨飾登山口からピストンで雨飾山に登り、下山後戸隠まで移動し戸隠神社奥社を参拝し、民宿「りんどう」へ宿泊する。

岩舟支所P3:00=登山口 P6:10/6:30~荒菅沢

8:00/8:10~笹平 9:00~雨飾山 9:20/9:30~

9:35/10:00~笹平 10:30~荒菅沢 11:20/11:50~

登山口P13:00/13:10=戸隠神社奥社 15:00/16:00

=りんどう 16:10



今回の山行は9日から3日間で北岳と間ノ岳に登る計画だったが、8日午前中に予約したタクシー会社から「広河原への林道で大規模落石があり通行止めになっている」との連絡が入った。落石の除去作業は明日までに出来るのではと言ったが、今回の落石は大きく削岩機で岩を砕かないと除去できないので、今日明日の復旧は無理との返事である。仕方なく奈良田から広河原行きのバスを調べると、平日は8:40が始発である。これでは山小屋着が遅くなるので、タクシー予約のTELをしたら「今日は大雨でバスが途中から引き返した、あすも林道が通れるか分からないので予約は受けられない」と断られた。



とりあえず、事情を話して山小屋の予約をキャンセルし、代替の山行が出来ないか検討する。天気は長野県北部から新潟県が良さそうなので、

3年連続雨で中止の雨飾山と、日帰りでは登れない高妻山に変更し参加者に連絡する。

全員から参加の連絡をいただき、今年5月に泊った戸隠の民宿「りんどう」の予約が取れた。

9月10日3時に岩舟支所を出発し、6時過ぎに小谷温泉の先にある雨飾高原キャンプ場駐車場に着く。

駐車場はすでに満車で、少し戻った路肩の駐車スペースに車を止める。

出発の準備を整えたら駐車場に移動し、トイレを済ませストレッチを行って出発する。休憩舎裏の登山口から、大海川沿いの河原まで緩やかに下って行く。湿地帯に出ると木道を歩くようになり、小沢を渡って尾根に取付く。いきなり急坂を登って行くが、途中から山腹を登るようになり傾斜が緩くなる。やがてブナの大木が目立つようになり、ブナ平と標識が立つ平坦な場所で小休止する。リンゴや菓子を食べて、水分を補給して息を整える。ここからも山腹を小さなアップダウンを繰り返しながら、ゆっくりと登って行く。しばらく進むと下るようになり、下り切ると視界が開け荒菅沢にでる。





荒菅沢を飛び石伝いに渡り、河原で休憩を取る。荒菅沢の上流を見上げると、布団菱の岩壁が圧倒的な存在感で迫ってくる。ここから樹林帯の急登となり、ロープや木の根に掴まりながら登って行く。尾根の上部に出ると、少し傾斜が緩くなり視界が開ける。やがて岩場の急登が連続し、これを登り切ると登山道は緩やかな起伏の稜線を進むようになる。一面にササが広がる主稜線に出て、展望が良い平坦な道を軽快に進む。行く手には雨飾山の山頂がお椀を伏せたような形で見えている。少し下ると雨飾温泉への分岐があり、ここが笹平言われる場所である。分岐から荒菅沢

を覗きこむような崖の上を通り、岩の急登をひと登りで南峰と北峰の鞍部に出る。鞍部から左にほんの少し登ると雨飾山北峰に着く。北峰には山頂の標柱と三角点が置かれ、360度の大展望が得られるがガスでほとんど見えない。ナシや菓子を食べ待つと、ほんのひと時ガスが晴れ笹平の「女神の横顔」が現れた。皆さん一斉にカメラやスマホを向け、写真に収め「これを見られただけでも良かった」と喜んでた。ここから南峰に移動したがガスは晴れず、4体の石仏と一緒に写真を撮ったら下山開始する。下山は往路を戻り、荒菅沢まで下ると危険箇所は無いので、河原でお湯を沸かしてランチを美味しくいただいた。



ここからも順調に下り、予定より1時間30分早く下山した。靴を履き替えたらず戸隠に向かうが、早く下山出来たのでご褒美に戸隠神社奥社を観光することにし、一路戸隠へ車を走らせる。戸隠神社奥社入口の大駐車場に車を止め、トイレを済ませたら参道を奥社に向かって歩いて行く。5月に来た時は参道の脇にリュウキンカやニリンソウが咲いていたが、今はシラヒゲソウの白い花が出迎えてくれる。参道の中ほどに隋神門があり、門をくぐると参道の両側に立派な杉並木が続く。樹齢600年を超えと言われるスギの大木が連なる様子は、厳粛な雰囲気と漂い戸隠神社の歴史の深さを感じさせてくれる。ここまで歩いてきたら我輩の腰が痛くなり、我輩はここで待つことにして4人で奥社まで行ってもらう。30分程で皆さんが戻り、駐車場まで奥社の感想など聞きながら歩いて行く。駐車場から車に乗り、



今宵の宿「りんどう」へと向かった。「りんどう」は今年5月に奥裾花自然園と飯縄山山行でお世話になった宿で、アットホームなおもてなしで居心地が良い民宿である。「りんどう」に着き、5月と同じ広い部屋に案内され荷物を整理し風呂に向かう。御主人から近くの「神告げ温泉」を勧められたが、温泉まで歩く元気が無く宿の風呂で汗を流した。風呂から上がった反省会が始まり、ビールや八海山をいただき大いに盛り上がる。6時から夕食になり、1階の食堂で美味しい夕食をいただいた。朝食用のおにぎりをいただいたら部屋に戻り、明日の準備をして早めに床に就いた。

11日 晴れ 早朝「りんどう」を出発し、戸隠牧場から一不動経由で高妻山に登り、下山は弥勒尾根を下って戸隠牧場へ下山し、岩舟支所に帰着する。

りんどう 4:55＝戸隠牧場 P5:10/5:30～滑滝 6:40～一不動 7:15/7:20～五地蔵 8:15/8:25～九勢至 9:10/9:20～高妻山 10:20/10:35～九勢至 11:00/11:10～六弥勒 12:10/12:40＝戸隠牧場 P14:25/14:45＝道の駅「しなの」15:15/15:30＝岩舟支所 P18:05

朝4時に起床し、宿のおにぎり弁当をいただいた。お茶を淹れ、沢庵と小さな塩サバでおにぎり3個を腹の中に押し込んだ。トイレを済ませたら外に出て、荷物を車に積んで登山口がある戸隠牧場へ向かう。



登山者は牧場外の登山者専用駐車場に止めるが、前回同様牧場内の売店の駐車場に車を止める。準備を整えストレッチを行って出発したが、我輩がキャンプ場のトイレに寄ったり、カメラを忘れて戻ったりで遅れ、迷惑をかけた。標識に従って牧場内の道をたどり、牛止めを抜けて牧場内へ入っていく。道はまっすぐに続き、山側に着いたところで牛止めを抜け登山道に入る。樹林の中をしばらく進むと飛び石伝いに沢を渡り、左岸を行くようになる。この後も何回も沢を渡り返すが、近年のゲリラ豪雨により沢がズタズタにえぐられ、渡るのが容易ではない。やがて右から大きな沢が合流すると、クサリ場が現

れる。清滝に付けられた20mlほどのクサリだが、足場がしっかりしてるので問題なく登れる。さらに沢の中を登ると大きな岩壁に行く手を遮られる。帯岩と言われる岩で、左の草付から登り垂直に近い帯岩の中ほどを、クサリを頼りに横切っていく。不動滝の落ち口の岩を乗り越えると、悪場は終わる。沢の中を少し登ると、一杯清水の水場に着く。美味しい水で乾いた喉を潤したが、皆さんは興味が無いようで誰も飲まなかった。水場を後に沢の中を登っていくが、水の流れは無くなりキツイ登りを頑張ると一不動に着く。一不動は避難小屋があり、戸隠山からのコースとここで合わさる。展望が良く飯縄山や黒姫山が見渡せ、展望を楽しみながらゼリーや菓子をいただく。すぐ先に不動尊が祀られおり、その前を通過して高妻山へ向



かう。樹林帯の道を登って行き、二釈迦の石祠がある所で稜線に出て、三文殊を過ぎると下りになる。さらに四普賢の石祠を過ぎて、きつい登りを越えると五地蔵山の山頂に着く。山頂は広く平らで休憩に良く、ゆっくり休んで疲れた足を休める。道は五地蔵山で左に折れ、再び樹林帯の中を緩やかに下っていく。小さく登り返すと六弥勒に出て、復路はここで昼食を食べ東の弥勒尾根を下って戸隠牧場へ戻る予定だ。ここから高妻山へ向かって行くと、行く手に小さなピークが見えてくる。きつい登りでピークに出ると、七観音がある。ここから樹林帯の稜線をアップダウンを繰り返して行くと、途中に八薬師が置かれている。続いて最後のピークに出ると九勢至に着き、展望が開けこれから登る高妻山がドーンと大きく聳えている。

「エ〜〜あんな急な所登れるの?」と言いながら、ゼリーや菓子を食べ高妻山を眺めていた。

一旦下ってよいよ本峰への登りになり、ネマガリタケの間の道を登って行く。道はしだいに傾斜を増し、



ミヤマハンノキやダケカンバの林に入るとさらにきつい登りになる。立ち木や木の根に掴まりながら、ゆっくりと高度を上げて行くが後続が遅れ始める。登りにくい岩場が連続し、岩やロープを頼りに攀じ登って行く。ようやく高妻山の肩に出て、草地の緩やかな登りになり休憩して後続の到着を待つ。

しばらく待つと全員到着し、小休止して山頂に向かって出発する。歩きにくい岩場に出ると十阿弥陀が祀られており、さらに進むと高妻山山頂に着く。山頂は南北に細長く、岩塊を積み重ねた様な岩場である。展望は素晴らしく、妙高山や火打山はじめ遠く北アルプスが望めるが、今日はいにくガス

が掛かり眺望は得られない。山頂での記念写真を撮ったら岩場に場所を取り、ナンや菓子を食べながら展望を楽しむ。ガスが少し晴れると周囲の山々は見えるが、北アルプスなどの遠望は得られなかった。

展望を楽しんだら下山開始し、往路の急坂を慎重に下って行く。九勢至まで下ると少し安心し、登って来た高妻山を眺めながら休憩する。ここから六弥勒まで戻るが、アップダウンの登山道はきつく長く、皆さんへろへろで六弥勒まで戻った。ここでランチタイムとし、お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、ランチをいただいたら疲れが回復した。

ここから東へ弥勒尾根を下って行くが、危険箇所は無いが急坂の登山道で気が抜けない。

滑らぬ様慎重に下って行くが、我々のパーティは下りになると力を発揮する。先行するグループを次々に追い抜き、無事に戸隠牧場へ下山した。

車を止めた売店でソフトクリームを食べたが、大きな山を登った達成感で、今までで一番おいしく感じられた。食べ終わったら帰路につき、途中、信濃町IC手前の道の駅「しなの」でお買い物。リンゴやシャインマスカット等をゲットし、信濃町ICから上信越道に乗り予定より早く岩舟支所に帰着した。

